

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 講義	授業担当者 宮本 直樹	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年生 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「人間」を多目的に理解して、人間としての尊厳の保持と本人主体の観点から自立・自律した生活を支える必要性について学び、介護福祉士の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1、「人間」の理解 2、尊厳と自立 3、人権尊重と権利擁護 4、介護における自立支援</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①「人間が生きる」ことの意味を深める。                  ②人間としての尊厳の保持と自立支援の必要性について理解する。                  ③介護場面における倫理的課題に対応できる基礎的能力を養う。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 教科のねらいと概要                  2 人間の理解① (他者の理解)                  3 人間の理解② (自己の理解)                  4 人間の理解③ (尊厳と自立の意義)                  5 人間の理解④ (生活の場での尊厳と自立)                  6 人間の理解⑤                  7 人間の理解⑥                  8 人権思想の歴史                  9 人権尊重と権利擁護①                  10 人権尊重と権利擁護②                  11 介護者の自立支援①                  12 介護者の自立支援②                  13 介護者の自立支援③                  14 教科のまとめ                  15 試験</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規                  参考文献は適時紹介</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席数 授業態度 試験 提出物を総合的に評価する</p>	
<p>実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</p>			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション	授業の種類 講義	授業担当者 宮本直樹・西尾優介																																							
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修																																						
[授業の目的・ねらい] 介護実践において、ご利用者・職場・家族など重要な人間達との関係を形成していくためのコミュニケーション能力を高める。また個人だけでなくチーム・組織の一員を意識した考えも身につける。さらに人材育成や組織の目的を達成するためのマネジメント力についても高めることを目的とする。																																									
[授業全体の内容の概要] 特にご利用者、家族とのコミュニケーション、関係づくり、心のケアのための基礎的態度、技術を習得するために、演習を交えながら「人間関係」を理解する授業を目指す。																																									
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間関係を形成していく上で必要な基本的コミュニケーション能力を身につけ、ご利用者や家族と関係づくりができる。																																									
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数																																									
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1 「人間と人間関係」 (①自分らしさの始まり)</td> <td style="width: 50%; border: none;">2 0 (②態度とバイステックの7つの原則)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2 (②自分と他者の理解)</td> <td style="border: none;">2 1 演習 (傾聴とバイステック)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3 演習 (自分を理解し、他者との関係を認識する)</td> <td style="border: none;">2 2 組織におけるコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4 (③発達心理学からみた人間関係)</td> <td style="border: none;">2 3 チームマネジメントの意義</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5 演習 (人間の発達)</td> <td style="border: none;">2 4 ケアを展開するためのケアマネジメント</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6 (④社会心理学からみた人間関係)</td> <td style="border: none;">2 5 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7 演習 (他者との関わり)</td> <td style="border: none;">(①求められる実践力)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8 (⑤集団との関わり)</td> <td style="border: none;">2 6 (②経験の支援・開発)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9 演習 (集団の中の人間関係)</td> <td style="border: none;">2 7 演習 (プレゼンテーション)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 0 (⑥人間関係とストレス)</td> <td style="border: none;">2 8 組織の目標達成のためのチームマネジメント</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 1 (⑦ストレスとは)</td> <td style="border: none;">2 9 演習 (組織のコミュニケーションについて考える)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 2 対人関係におけるコミュニケーション (①概念と構造)</td> <td style="border: none;">3 0 試験</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 3 (②マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 4 (③コミュニケーションの手段 1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 5 (④コミュニケーションの手段 2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 6 中間振り返りとテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 7 言語と非言語コミュニケーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 8 演習 (介護福祉職としてのコミュニケーション)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">1 9 対人援助関係とコミュニケーション (①対人援助の基本)</td> <td></td> </tr> </table>				1 「人間と人間関係」 (①自分らしさの始まり)	2 0 (②態度とバイステックの7つの原則)	2 (②自分と他者の理解)	2 1 演習 (傾聴とバイステック)	3 演習 (自分を理解し、他者との関係を認識する)	2 2 組織におけるコミュニケーション	4 (③発達心理学からみた人間関係)	2 3 チームマネジメントの意義	5 演習 (人間の発達)	2 4 ケアを展開するためのケアマネジメント	6 (④社会心理学からみた人間関係)	2 5 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	7 演習 (他者との関わり)	(①求められる実践力)	8 (⑤集団との関わり)	2 6 (②経験の支援・開発)	9 演習 (集団の中の人間関係)	2 7 演習 (プレゼンテーション)	1 0 (⑥人間関係とストレス)	2 8 組織の目標達成のためのチームマネジメント	1 1 (⑦ストレスとは)	2 9 演習 (組織のコミュニケーションについて考える)	1 2 対人関係におけるコミュニケーション (①概念と構造)	3 0 試験	1 3 (②マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション)		1 4 (③コミュニケーションの手段 1)		1 5 (④コミュニケーションの手段 2)		1 6 中間振り返りとテスト		1 7 言語と非言語コミュニケーション		1 8 演習 (介護福祉職としてのコミュニケーション)		1 9 対人援助関係とコミュニケーション (①対人援助の基本)	
1 「人間と人間関係」 (①自分らしさの始まり)	2 0 (②態度とバイステックの7つの原則)																																								
2 (②自分と他者の理解)	2 1 演習 (傾聴とバイステック)																																								
3 演習 (自分を理解し、他者との関係を認識する)	2 2 組織におけるコミュニケーション																																								
4 (③発達心理学からみた人間関係)	2 3 チームマネジメントの意義																																								
5 演習 (人間の発達)	2 4 ケアを展開するためのケアマネジメント																																								
6 (④社会心理学からみた人間関係)	2 5 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント																																								
7 演習 (他者との関わり)	(①求められる実践力)																																								
8 (⑤集団との関わり)	2 6 (②経験の支援・開発)																																								
9 演習 (集団の中の人間関係)	2 7 演習 (プレゼンテーション)																																								
1 0 (⑥人間関係とストレス)	2 8 組織の目標達成のためのチームマネジメント																																								
1 1 (⑦ストレスとは)	2 9 演習 (組織のコミュニケーションについて考える)																																								
1 2 対人関係におけるコミュニケーション (①概念と構造)	3 0 試験																																								
1 3 (②マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション)																																									
1 4 (③コミュニケーションの手段 1)																																									
1 5 (④コミュニケーションの手段 2)																																									
1 6 中間振り返りとテスト																																									
1 7 言語と非言語コミュニケーション																																									
1 8 演習 (介護福祉職としてのコミュニケーション)																																									
1 9 対人援助関係とコミュニケーション (①対人援助の基本)																																									
[使用テキスト・参考文献] 「人間の理解」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について 総合的に評価する																																							
実務経験の有無 ( <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">有</span> ) ・ 無 )																																									

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 (前期)	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する学習とする。また、我が国の社会保障の基本的な考え方や歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人が生活していく家族という単位、地域、帰属する社会、社会構造の変化によってライフスタイルの変化、社会保障制度の発達など社会全体の成り立ちや現代社会における社会保障制度が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>① 個人、社会の成り立ちや関係性を理解できる ② 社会保障の基本的な考え方を述べることができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会と生活のしくみ①</li> <li>3. 社会と生活のしくみ② (地域・社会の役割)</li> <li>4. 社会的環境の変化と生活歴①</li> <li>5. 社会的環境の変化と生活歴②</li> <li>6. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策</li> <li>7. 社会保障制度の基本的な考え方</li> <li>8. 社会保障制度の発達</li> <li>9. 社会保障制度のしくみ</li> <li>10. 現代社会と社会保障制度</li> <li>11. グループワーク (社会保障制度について発表準備)</li> <li>12. グループワーク (社会保障制度について発表準備)</li> <li>13. 発表</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座「社会の理解」 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 (後期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する学習とする。また、我が国の社会保障の基本的な考え方や歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会制度として介護保険や障害者総合支援法の成り立ちから社会状況に合わせて変化していった経過、今後の目標、その他の生活者としての利用者や自分たちの生活にかかわる社会福祉制度・法律などを理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>①個人、社会の成り立ちや関係性を理解できる</p> <p>②社会保障の基本的な考え方を述べることができる</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>16. 高齢者保健福祉 17. 高齢者保健福祉に関連する法体系 18. 介護保険制度① 19. 介護保険制度② 20. 介護保険制度③ 21. 介護保険制度④ 22. 介護保険制度の動向 23. 障害者保健福祉の動向 24. 高齢者保健福祉に関連する法体系 (高齢者虐待、成年後見制度など) 25. 障害者保健福祉に関連する法体系① 26. 障害者保健福祉に関連する法体系② 26. 個人の権利を守る制度・施策、保健医療に関する制度・施策 27. 地域生活を支援する制度・施策 28. まとめ 29. 試験</p>				
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座2「社会の理解」 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、授業態度、出席、提出物について総合的に判断する	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )				

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 音楽	授業の種類 演習	授業担当者 汲田 幸世	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 施設で利用者の方達と、童謡や懐かしい歌（明治、大正、昭和の歌）と一緒に歌ったり、踊ったりしてコミュニケーションをとれる様にする。 [授業全体の内容の概要] 小・中・高校で習ってきた音楽の授業とは違い、施設等で利用者の方たちに喜んでもらえる様な歌を主に勉強します。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 利用者の方達とコミュニケーションを取るひとつの手段として、色々な歌が歌えるようになるのを目指します。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1	かごの鳥、うさぎとかめ、南国土佐を後にして	他	
2	こいのぼり、リンゴの唄	他	
3	茶摘み、アルプス一万尺	他	
4	炭坑節、青い山脈	他	
5	夏は来ぬ、里の秋、紅葉	他	
6	涙そうそう	他	
7	千の風になって	他	
8	高原列車は行く	他	
9	蘇州夜曲	他	
10	憧れのハワイ航路	他	
11	七夕、山小屋の灯	他	
12	海、われは海の子	他	
13	故郷、誰か故郷を思わざる	他	
14	上を向いて歩こう、星影のワルツ	他	
15	川の流れのように	他	
[使用テキスト・参考文献] 「愛唱名歌」 野ばら社		[単位認定の方法及び基準] 出席、試験（グループ演奏）、授業態度を総合的に評価。特に授業態度を重視する。	
実務経験の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）			

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 日本語表現 I		授業の種類 講義		授業担当者 岡村 真雄	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 相手にわかりやすく正確に伝わる文章を「書く」ために、日本語の文字や言葉について基本的な知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] なにげなく使っている漢字やひらがな・カタカナはどのように混ぜて書くことが望ましいか、日本語にはどのような特徴があり、その特徴を活かすにはどのような注意が必要か意識し学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 福祉専門教科の学習や実習を円滑かつ効果的にするために「書く」「読む」「伝える」の知識を身につける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 漢字 (象形・指事)</li> <li>3 漢字 (会意・形声)</li> <li>4 漢字 (仮借・転注・国字) (小テスト)</li> <li>5 文章 (主語・述語)</li> <li>6 文章 (修飾・被修飾)</li> <li>7 文章 (助詞)</li> <li>8 文章 (5W1H)</li> <li>9 文章 (指示語)</li> <li>10 文章 (接続語)</li> <li>11 文章 (句読点・文の区切り)</li> <li>12 文章 (副詞)</li> <li>13 文章 (敬語)</li> <li>14 文章 (敬語)</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 漢字の常識			[単位認定の方法及び基準]		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆記試験</li> <li>・ 提出物</li> <li>・ 授業中の態度、意欲</li> </ul>		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 日本語表現Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 岡村 真雄	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばす。模範となる表現に接することで言語感覚を磨き、進んで表現しようとする意欲を喚起し社会生活の充実を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>(1) 多面的な漢字・語彙・表記・表現の知識を身につけ、精密かつ迅速に聞き取る練習・読み取る練習を行う。</p> <p>(2) 上記の内容のために、テキストをもとにした講義と実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>正確な聞き取りや読み取りの力とともに、多角的な国語表現力を備え、今後介護福祉士として求められる知識技能を、常に主体的に学んでいく態度を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 しっかりと挨拶しよう。</li> <li>2 友達を紹介する。好きなものを紹介する。</li> <li>3 改まった話し方をしてみよう。</li> <li>4 敬語について説明する。</li> <li>5 敬語を使って書こう。プリントを使って問題を解く。</li> <li>6 敬語を使って話そう。</li> <li>7 話を聞く。</li> <li>8 わかりやすく伝える。</li> <li>9 キーワードを説明する。</li> <li>10 根拠と出典を示す。</li> <li>11 表やグラフを読む、描く。</li> <li>12 レポートを書く、レポートをまとめる。</li> <li>13 レポートを発表①</li> <li>14 レポートを発表②</li> <li>15 試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「日本語表現&amp;コミュニケーション」 実教出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験</li> <li>・提出物</li> <li>・授業中の態度、意欲</li> </ul>	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 地域福祉論 I		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域福祉の推進は、介護福祉士倫理綱領でも謳われている。地域福祉の考え方（それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む）を基盤に、地域活動や、レクリエーション事業などの交流活動に参加する。その活動を通して、地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。また、学生自身が地域住民としての自覚をもち、地域活動、交流活動に参加する。</p> <p>個々の状態に応じたレクリエーション支援の具体的な方法を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士として必要な地域福祉の基礎的な知識を習得する。</li> <li>・地域住民の一員としての自覚をもち、地域活動、交流に自主的に参加する。</li> <li>・レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解した上で、個々に応じたレクリエーション支援のプログラムを立案することができる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1. 2. 3.  自分の居住地について知る（地図の作成）</p> <p>4. 5. 6.  自分の居住地において利用できる福祉サービス・課題を理解する</p> <p>7. 8.  レクリエーション支援の目的と手段を理解する</p> <p>9～12.  レクリエーション支援の具体的な方法を理解する</p> <p>13～15.  地域における絆づくりの実際を理解する           （レクリエーション活動・福祉サービス）</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」 日本レクリエーション協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席及び授業態度 提出物の内容・提出期限等で総合的に評価する</p>		
<p>実務経験の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ） ・ 無 ）</p>				



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 地域福祉論Ⅱ	授業の種類 演習	授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域福祉の推進は、介護福祉士倫理綱領でも謳われている。地域福祉の考え方（それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む）を基盤に、地域活動や、レクリエーション事業などの交流活動に参加する。その活動を通して、地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。また、学生自身が地域住民としての自覚をもち、地域活動、交流活動に参加する。</p> <p>個々の状態に応じたレクリエーション支援の具体的な方法を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士として必要な地域福祉の基礎的な知識を習得する。</li> <li>・地域住民の一員としての自覚をもち、地域活動、交流に自主的に参加する。</li> <li>・レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解した上で、個々に応じたレクリエーション支援のプログラムを立案することができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1</p> <p>1～5. 地域における絆づくりの実際を理解する                  (レクリエーション活動・福祉サービス)</p> <p>6. 7. 対象者によって異なる心の元気づくりの方法を理解する</p> <p>8～14. 地域福祉活動実践 (点字絵本作成)</p> <p>15. 地域福祉活動実践活動報告 (振り返りレポート)</p>			
[使用テキスト・参考文献] 「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」 日本レクリエーション協会		[単位認定の方法及び基準] 出席及び授業態度 提出物の内容・提出期限等で総合的に評価する	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論A		授業の種類 講義		授業担当者 宮本 直樹	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年前期 (前半)		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の定義、介護福祉士を取り巻く状況を理解しながら、なぜ介護の専門職としての必要性が高まっているのかを知り、必要な職業倫理を学ぶ。介護の専門職としての職業倫理に基づいた介護、根拠に基づいた介護が理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士の法的根拠を理解し、職業倫理を学ぶ。要介護者の生活や思いをベースとした介護のあり方が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>介護福祉士の原則・倫理を理解し、介護の意義・専門性を理解できる。個別ケアの重要性を理解したうえでの介護のあり方を理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護とは？自分が目指す介護福祉士像</li> <li>2 生活歴・ジェノグラム作成</li> <li>3 介護の成り立ち</li> <li>4 介護の概念の変遷</li> <li>5 『恍惚の人』</li> <li>6 『恍惚の人』</li> <li>7 介護福祉の基本理念</li> <li>8 介護福祉士の活動の場と役割</li> <li>9 社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>10 介護福祉士養成カリキュラムの変遷</li> <li>11 介護福祉士を支える団体</li> <li>12 介護福祉士の倫理①</li> <li>13 介護福祉士の倫理②</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 小テスト</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論A		授業の種類 講義		授業担当者 宮本 直樹	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 60時間 (4単位)		配当学年・時期 1年前期 (後半)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士を取り巻く状況を理解しながら、専門職としての役割や職業倫理を学ぶ。そして、利用者の『尊厳の保持』『自立支援』という視点を明確にするとともに、介護を必要とする人を生活の視点からとらえることができるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>まず、自分たちの生活を構成する要素や特性を理解することから始める。それを踏まえたうえで、高齢者や障害者を生活障害の視点から理解する。また、物理的・人的環境などの様々な面から利用者の生活環境をとらえる。さらに『尊厳を支える』という介護において重要な考え方についても理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>生活支援としての介護の役割や専門性を理解し、介護職が行う生活支援の意義を理解できる。ICFやリハビリテーションの考え方を理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>16 介護を必要とする人の理解</p> <p>17 私たちの生活の理解</p> <p>18 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護</p> <p>19 QOLの視点の重視</p> <p>20 『その人らしさ』と『生活ニーズ』の理解</p> <p>21 個別支援の視点</p> <p>22 生活障害の理解</p> <p>23 生活環境の重要性</p> <p>24 人的な生活環境の重要性</p> <p>25 介護のはたらきと基本的視点</p> <p>26 さまざまな生活支援とその意義①</p> <p>27 さまざまな生活支援とその意義②</p> <p>28 さまざまな生活支援とその意義③</p> <p>29 尊厳を支える介護 (高齢者虐待防止法)</p> <p>30 試験</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」 (第3版) (第4版) 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (80%)・提出物・出席状況・授業態度 (20%) について総合的に評価する</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論B		授業の種類 講義		授業担当者 宮本 直樹
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年前期・後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護サービスの質と安定性を確保するしくみであるケアマネジメントの概略を学んだうえで、そこを利用する人々と介護のあり方を明確にする。また、そこにかかわる関連職種や機関の特性を理解し、チームを担える介護職になれるように学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義やグループワークを通じて、介護保険制度における現在の介護サービスの種類や意義、目的を学ぶ。また、地域における介護サービスのあり方を学び、関連機関の所在地を調査することで、身近な介護サービスへの理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護保険制度における介護サービスの種類や提供の場を理解し、その場における多職種連携や地域連携を理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 復習</li> <li>2 生活の理解</li> <li>3 介護福祉を必要とする人たちの暮らし</li> <li>4 「その人らしさ」「生活ニーズ」の理解</li> <li>5 生活のしづらさの理解</li> <li>6 生活を支えるフォーマルサービス</li> <li>7 生活を支えるフォーマルサービス②</li> <li>8 生活を支えるフォーマルサービス③</li> <li>9 生活を支えるフォーマルサービス④</li> <li>10 障害者のためのフォーマルサービスの概要</li> <li>11 生活を支えるインフォーマルサービスとは</li> <li>12 地域連携</li> <li>13 まとめ</li> <li>14 コロナ禍における介護を考える</li> <li>15 試験</li> </ol>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」 中央法規</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する</p>	
<p>実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・無 )</p>				

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論C		授業の種類 講義		授業担当者 宮本 直樹
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。さらに、介護者自身の健康管理の必要性を理解し、職業人としての人格形成を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義やグループワークを通して、感染症や事故など介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法を学ぶ。また、介護者の健康や安全問題、環境整備について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>介護における安全確保の必要性と、その方法について理解できる。また、職業観や労働観を養い、自らの介護観を構築できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振り返り</li> <li>2. 感染対策① (感染とは・手洗いについて)</li> <li>3. 感染対策② (感染を疑うべき症状)</li> <li>4. 感染対策③ (インフルエンザ・結核・ノロウイルス・疥癬・レジオネラ)</li> <li>5. 介護における安全の確保とリスクマネジメント</li> <li>6. 事故防止のための対策</li> <li>7. 多職種連携・協働の必要性</li> <li>8. 保健・医療・福祉職の役割と機能</li> <li>9. 多職種連携・協働の実際</li> <li>10. 介護従事者の安全① (健康管理の意義と目的、こころの健康管理)</li> <li>11. 介護従事者の安全② (身体の健康管理)</li> <li>12. 介護従事者の安全③ (労働環境の整備)</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. 自分が目指す介護福祉士像</li> <li>15. 試験</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )				

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) リハビリテーション論		授業の種類 講義		授業担当者 岡部 孝生	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] リハビリテーションの理念と概要を理解してもらい、その上でリハビリテーションにおける介護福祉士の役割を認識してもらう事を目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] テキストと配布資料に沿って授業を展開します。スライドや動画を多用することでリハビリテーションについての理解を深めてもらいます。必要に応じて、実技も取り入れる予定です。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を知る。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念</li> <li>2. リハビリテーションの目的①</li> <li>3. リハビリテーションの目的②</li> <li>4. リハビリテーションの対象と組織</li> <li>5. リハビリテーションの範囲と流れ</li> <li>6. リハビリテーション介護 (介護福祉士の役割)</li> <li>7. 障害別リハビリテーションの実際① (脳血管障害①)</li> <li>8. 障害別リハビリテーションの実際② (脳血管障害②)</li> <li>9. 障害別リハビリテーションの実際③ (パーキンソン病)</li> <li>10. 障害別リハビリテーションの実際④ (脊髄損傷)</li> <li>11. 障害別リハビリテーションの実際⑤ (その他)</li> <li>12. 介護福祉士としてのリハビリテーション①</li> <li>13. 介護福祉士としてのリハビリテーション②</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 「学びやすいリハビリテーション論」 金芳堂			[単位認定の方法及び基準] 出席ならびに定期試験		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 災害救護	授業の種類 演習		授業担当者 土居 清彦
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として各種災害からの「とっさの事態」に対応できる能力を育成する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 敵を知り己を知る・自己の健康管理及び自己統制のできる自分を育成する各種災害から生まれる目に見えない危険・苦痛を見抜き、その対処行動を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 知っていることと正しくできることは違います。命に関する救命・救助行動の理解力を高める。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康と災害救護</li> <li>2 災害の定義と種類</li> <li>3 災害と健康障害</li> <li>4 災害後の心的ストレス</li> <li>5 災害医療の特徴</li> <li>6 災害情報     上記6回は教室でのPC座学</li> <li>7 避難対処法と搬送法</li> <li>8 救護に必要な命綱 ロープワーク</li> <li>9 被害患者の手当・バイタルチェック</li> <li>10 応急処置ストッキング救急法</li> <li>11 三角巾手当</li> <li>12 止血法</li> <li>13 CPR・誤飲における対処法</li> <li>14 CPR・AED</li> <li>15 まとめ・実技テスト</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「ストッキング救急法」 コンパス出版局 「災害看護学・国際看護学」 医学書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平時授業の小テスト</li> <li>・ 期末における記入テストと実技テスト</li> </ul>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術A		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護におけるコミュニケーションの役割について理解ができ、利用者・家族との信頼関係を築く上で重要な手段であることを学ぶ。またチームで利用者の生活を支援させていただく専門職として、仲間・多職種との良好なコミュニケーションやレクリエーションのあり方について理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護職におけるコミュニケーションとレクリエーションの基本、介護場面における利用者・家族・チーム・多職種とのコミュニケーションや交流のあり方について、講義と演習を取り入れながら行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人援助職としてコミュニケーションとレクリエーションの方法について理解できる。</li> <li>・コミュニケーションの困難な方に対するコミュニケーション方法について理解できる。</li> <li>・チーム・多職種との連携の重要性を理解できる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは (自己紹介)</li> <li>2. 介護におけるコミュニケーションとは</li> <li>3. 介護におけるコミュニケーションとは</li> <li>4. 介護におけるコミュニケーションの対象</li> <li>5. 援助関係とコミュニケーション</li> <li>6. コミュニケーション態度に関する基本技術</li> <li>7. コミュニケーション態度に関する基本技術</li> <li>8. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本</li> <li>9. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本</li> <li>10. 目的別のコミュニケーション技術 (アイスブレイキングの方法と実践)</li> <li>11. 目的別のコミュニケーション技術 (アイスブレイキングの方法と実践)</li> <li>12. 集団におけるコミュニケーション技術 (レクリエーション活動の展開方法)</li> <li>13. 集団におけるコミュニケーション技術 (レクリエーション活動の展開方法)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 「コミュニケーション技術」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )				



授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術B		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 1年 後期	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 利用者を主体として、利用者の特性、介護場面に応じた援助的コミュニケーションの方法とレクリエーションの方法を学ぶ。 介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解しその方法を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 「コミュニケーション障害のある利用者への対応を考えるための視点、対応方法、選択の視点、実践結果の検証の視点と方法」、「介護におけるチームのコミュニケーション」について概説する。 また福祉施設において職員や利用者との歌を媒体としたコミュニケーションやレクリエーションを実践する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] コミュニケーション障害を理解し、その特性に応じたコミュニケーションとレクリエーションの技法を習得する。 介護におけるチームのコミュニケーションの意義と具体的方法を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 コミュニケーションの基本技術～聴覚障害者の動画を通して～ 2 コミュニケーションの基本技術 3 コミュニケーション障害の理解 ～コミュニケーションと脳の関係～ 4 コミュニケーション障害のある利用者への対応 5 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～高次脳機能障害～ 6 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～失語症・構音障害～ 7 音楽を用いたコミュニケーションの実際① 8 音楽を用いたコミュニケーションの実際② 9 音楽を用いたコミュニケーションの実際③ 10 音楽を用いたコミュニケーションの実際④ 11 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～認知症～ 12 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～視覚・聴覚障害～ 13 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～知的・精神障害～ 14 介護におけるチームのコミュニケーション 記録 報告・連絡・相談 会議 15 試験					
[使用テキスト・参考文献] コミュニケーション技術 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 試験、授業態度 提出物、出席状況		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術A		授業の種類 講義		授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1年 前期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活を支えるための具体的技術を学ぶにあたり、「生活」とは何かを学習し、家事のもつ意義について理解する。さらに、家事の自立に必要な基本的な知識を習得できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活がどのような側面から構成されているか理解する。</li> <li>・生活について、人間の発達段階と関連づけて理解する。</li> <li>・生活における家事のもつ意義について理解する。</li> <li>・家事の自立に必要な基本的な知識について理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士としての家事支援 (基礎基本) が習得できたか。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに 自分自身の生活を見つめる</li> <li>2 生活を理解する</li> <li>3 生活支援の基本的な考え方</li> <li>4 生活支援の基本的な考え方</li> <li>5 生活支援と介護過程</li> <li>6 生活支援と介護過程 生活支援とチームアプローチ</li> <li>7 生活支援とチームアプローチ</li> <li>8 自立した家事とは</li> <li>9 自立した家事とは</li> <li>10 自立に向けた家事の介護 (調理)</li> <li>11 自立に向けた家事の介護 (洗濯・掃除)</li> <li>12 自立に向けた家事の介護 (買い物・ごみ捨て)</li> <li>13 家事の介護における多職種との連携(悪質商法、クーリングオフ)</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「生活支援技術 I」 中央法規</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験・提出物・出席状況 授業態度等により総合的に評価</p>		
<p>実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )</p>					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術B (住居)		授業の種類 講義・演習		授業担当者 和田 理砂	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2年 後期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間生活における住宅・住環境の意味・役割・重要性・社会性を理解できる基礎的な知識を身につけ、主体的な住み手、また介護の専門職として安全で心地よい生活空間づくりができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>住まい・住環境の基礎的な知識、役割について講義、演習、グループワークを行い、理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住宅、住環境の役割・重要性・社会性について理解し、説明できる。</li> <li>2. 住まいと生活にかかわる健康・安全などの問題について基礎的な理解ができ、説明できる。</li> <li>3. 住まいづくり、まちづくりに必要な基礎的な理解ができ、説明できる。</li> </ol>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. オリエンテーション、ユニバーサルデザイン：ノーマライゼーション</li> <li>17. 室内環境と安全、高齢者の事故</li> <li>18. ユニバーサルデザイン (発表)</li> <li>19. 住宅環境の意義と目的</li> <li>20. 安全に暮らすための生活環境</li> <li>21. 高齢者・障害者の住まい</li> <li>22. 自然災害と安全な住まい</li> <li>23. 住み慣れた地域での生活：日本各地の住まい、気候風土と住宅、住環境</li> <li>24. 住み慣れた地域での生活：日本各地の住まい、気候風土と住宅、住環境②</li> <li>25. 福祉住環境とは①</li> <li>26. 福祉住環境とは②</li> <li>27. 福祉住環境とは③</li> <li>28. まとめ</li> <li>29. 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
介護福祉士養成講座6「生活支援技術I」 中央法規			筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術C		授業の種類 講義・演習		授業担当者 西村 佳菜子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間(1単位)		配当学年・時期 2年前期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基礎となる家庭生活とそこで営まれる衣・食・住の「食」に関する理解を深める</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・調理の基礎 講義と実習 ・対象者別の調理 講義と実習</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] ・「食べること」の重要性を理解する ・調理方法を実習で身につける</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 自立に向けた家事の介護 (教科書使用) 講義</li> <li>3 自立に向けた家事の介護 (教科書使用) 講義</li> <li>4 自立に向けた家事の介護 (教科書使用) 講義</li> <li>5 栄養に関する基礎・食中毒 講義</li> <li>6 調理実習 和食</li> <li>7 調理実習 洋食</li> <li>8 調理実習 中華</li> <li>9 疾病治療の食事 他 講義</li> <li>10 糖尿病食</li> <li>11 腎臓病食 (食塩制限)</li> <li>12 高齢者の食事・摂食嚥下 講義</li> <li>13 軟菜食・嚥下食</li> <li>14 テスト前対策</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献]  生活支援技術 I 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準]  1. 出席状況 2. 授業、実習態度 3. 試験 4. レポート等提出状況		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術D	授業の種類 演習	授業担当者 宮本 直樹・野村 晃江 西尾 優介・和田 理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 衣食住生活の自立を支援するための基礎知識と技能を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 講義と演習を通じて衣食住それぞれの家事の重要性を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 個々の利用者に適した自立した生活への支援ができる実践力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 自立生活を支える家事 2 (演習) 手縫いの基本 3 (演習) 手縫いの基本 4 介護における食について 5 介護における衣について 6 (演習) 作品作り 7 (演習) 作品作り 8 洗濯・掃除・ゴミ捨て 9 買い物・家計の管理 10 (演習) 作品作り 11 (演習) 作品作り 12 (演習) 作品作り 13 (演習) 作品作り 14 まとめ 15 試験			
[使用テキスト・参考文献]  生活支援技術 I 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準]  定期考査：製作作品、筆記試験  その他：出席日数・授業態度	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )			

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術 E I（介護技術）	授業の種類 演習	授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 自立に向けた「身じたくの介護」「移動の介護」「食事の介護」「入浴・清潔保持の介護」について概説する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 利用者の心身の状態に応じた尊厳のある自立に向けた介護が実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 生活支援技術を学ぶにあたって 2. 3 生活環境の整備（ベッドメイキング） 4. 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫 5. 自立に向けた身じたくの介護（洗面・整髪・ひげの手入れ・爪・化粧等） 6. 自立に向けた身じたくの介護（口腔の清潔） 7. 8. 9 自立に向けた身じたくの介護（衣類着脱） 10. 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント、安全で気兼ねなく動けることを支える介護 11. 12. 13 自立に向けた移動の介護（ボディメカニクス、体位変換） 14. 15. 16 自立に向けた移動の介護（安楽な体位の保持、立位・歩行の介護） 17. 18. 19 自立に向けた移動の介護（車椅子の介護） 20. 食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント、「おいしく食べる」ことを支える介護 21. 22. 23. 自立に向けた食事の介護（安全で的確な食事介護の技法） 24. 入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント 25. 26. 27. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（入浴、シャワー浴、足浴、手浴） 28. 29. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（全身清拭、陰部洗浄、洗髪） 30. 試験			
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術 I・II」 中央法規		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・実技・提出物 出席状況・授業態度・身だしなみ	
実務経験の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術E II (介護技術)		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 1年 後期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]            尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]            自立に向けた「食事の介護」「排泄の介護」「睡眠の介護」と「終末期の介護」について概説する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]            利用者の心身の状態に応じた尊厳のある自立に向けた介護が実践できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立に向けた清潔保持の介護 (ベッド上での洗髪介助)</li> <li>2 自立に向けた清潔保持の介護 (ベッド上での洗髪介助)</li> <li>3 自立に向けた移動の介護 (車いすへの移乗)</li> <li>4 自立に向けた移動の介護 (車いすへの移乗)</li> <li>5 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法)</li> <li>6 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法)</li> <li>7 自立に向けた排泄の介護 (トイレ・ポータブルトイレ)</li> <li>8 自立に向けた排泄の介護 (トイレ・ポータブルトイレ)</li> <li>9 自立の向けた排泄の介護 (オムツ・尿器・差し込み便器)</li> <li>10 自立の向けた排泄の介護 (オムツ・尿器・差し込み便器)</li> <li>11 安眠を促す介護の技法</li> <li>12 終末期における介護の意義・目的、利用者のアセスメント、介護・医療との連携</li> <li>13 自立に向けた生活支援技術 (まとめ)</li> <li>14 自立に向けた生活支援技術 (まとめ)</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術 I・II」 中央法規出版社			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・実技試験 出席状況・授業態度・身だしなみ		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 F I	授業の種類 講義 ・ 演習	担当者名 前田 真紀	
授業の回数 1 5 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年 後期	必修・選択 必 修
【授業の目的・ねらい】 ○聴覚・言語障害について医学的・心理的側面から理解する ○聴覚・言語障害者の生活上の困りごとを理解する ○音声以外のコミュニケーション力を意識しその力を向上させる 【授業全体の内容の概要】 ○聴覚・言語障害のある人の暮らしや困りごとを事例の中から学ぶ ○音声以外で伝え合う工夫を体感し、習得する。 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 ○聴覚・言語障害のある人への支援の方法を理解する。 ○介護福祉士として果たすべき役割を理解する。 ○相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶や自己紹介程度の会話が可能になる。 ○全国手話検定試験 5 級程度のレベルになる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 1 聴覚障害の理解①「きこえ」 / 音声以外のコミュニケーション 2 聴覚障害の理解②「補聴器」 / 手話の構成要素① 3 聴覚障害の理解③「生活」 / 手話の構成要素② 4 聴覚障害の理解④「歴史」 / 自己紹介① 名前 年齢 生年月日 5 聴覚障害の理解⑤「日常生活用具」 / 自己紹介② 家族 趣味 好き嫌い 6 聴覚障害の理解⑥「情報保障」 / 自己紹介③ スポーツ 動物 食べ物 7 聴覚障害の理解⑦「教育・制度」 / 名詞 動詞の表現 ① 8 聴覚障害の理解⑧「ろう高齢者」 / 名詞 動詞の表現 ② 9 言語障害の理解①「言語障害」 / 名詞 動詞の表現 ③ 10 言語障害の理解②「生活・事例」 / 形容詞の表現 11 グループワーク・発表 / 会話例① 12 1分スピーチ練習 / 会話例② 13 1分スピーチ発表 14 学習のまとめ 15 後期試験			
[使用テキスト] 生活支援技術Ⅲ わたしたちの手話学習辞典 1 [ 参考文献 ] 手話奉仕員養成講座テキスト (入門) DVDで学ぶ手話の本 (手話検定 5 級対応) 等		[ 単位認定の方法及び基準 ] 提出物・授業態度・実技・レポートなど	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 F II		授業の種類 講義・演習		担当者名 前田 真紀	
授業の回数 15 回		時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 年 前期	
				必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○聴覚・言語障害について医学的・心理的側面から理解する</p> <p>○聴覚・言語障害をもつ人々の生活上の困りごとを理解する</p> <p>○コミュニケーション力を高め、自分の体験、意見や考えを手話表現ができる技術を習得する。</p> <p>○全国手話検定試験 4 級受験にむけての学習を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○厚生労働省手話奉仕員養成講座 (入門課程) テキスト及び全国手話検定 4 級に基づく学習を行う。</p> <p>○ゲスト講師を招き、実際に手話で会話をを行う。</p> <p>○聴覚障害についてより理解するために、聴覚障害や手話についての知識を深める</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>○聴覚障害者との円滑なコミュニケーションが図れるよう、周りに働きかけ、自らも積極的に話かけることができるようになる。</p> <p>○聴覚障害・聴覚障害者についての理解を深め、介護現場でどのような対応をしたらよいかを考え、それを実践できるようになる。</p> <p>○全国手話検定試験 4 級に合格する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション及び手話 1 の復習／自己紹介をする</li> <li>2 重複障害の理解①「重複障害とは」 対話の基礎練習／旅行の計画</li> <li>3 重複障害の理解②「生活」 会話練習／予定をきく 「手話の基礎知識」／講義</li> <li>4 重複障害の理解③「支援」 会話練習／行事や食事の誘い</li> <li>5 会話練習／理由を尋ねる 手話スピーチの練習</li> <li>6 授業の感想 手話スピーチの発表</li> <li>7 聴覚障害者とのフリーディスカッション</li> <li>8 実習先での会話練習及び聴覚障害者への対応について</li> <li>9 検定試験 4 級受験対策①／出題範囲の単語の確認</li> <li>10 検定試験 4 級受験対策②／出題範囲の単語の確認</li> <li>11 検定試験 4 級受験対策③／手話スピーチの練習</li> <li>12 検定試験 4 級受験対策④／手話スピーチの練習</li> <li>13 検定試験 4 級受験対策⑤／面接の練習</li> <li>14 検定試験 4 級受験対策⑥／面接の練習</li> <li>15 総合学習／学習のまとめ</li> </ol>					
<p>[使用テキスト] 生活支援技術Ⅲ 手話学習辞典</p> <p>[参考文献] 手話奉仕員養成講座入門課程</p> <p>DVD で学ぶ手話の本 (手話検定 4 級対応)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>提出物・授業態度・実技・レポートなど</p>		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術G (知的・肢体・重複)		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 23回	時間数(単位数) 45時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]障害の種類とその特性や原因、障害を持つ人の心理と家族の関係、介護者としての役割について学ぶ。移動支援サービスに関する知識・技術を習得し、自立に向けた安全な介護方法を理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]講義を通して障害者の疾病・障害を理解した上で、演習による移動の介護を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]障害の特性に応じ、根拠に基づいた介護方法を理解できる。安全で正確な移動の支援を行なうことができる。障害者福祉への関心と継続的考察への動機づけ。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 移動の介護に係る制度及びサービス・ガイドヘルパーの制度と業務</li> <li>2 全身性障害者の生活の理解</li> <li>3 全身性障害者の疾病、障害について (脳血管障害)</li> <li>4 全身性障害者の疾病、障害について (骨関節疾患・筋ジストロフィー)</li> <li>5 全身性障害者の疾病、障害について (頭部外傷・脊髄小脳変性症)</li> <li>6 全身性障害者の疾病、障害について (脊髄損傷・筋萎縮性側索硬化症)</li> <li>7 知的障害者の疾病、障害等に関する講義と演習</li> <li>8 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた住環境・身支度)</li> <li>9 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた移動・食事)</li> <li>10 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた家事・睡眠・終末期)</li> <li>11 障害者の心理・家族の心理</li> <li>12 基礎的な移動の介護に係る技術に関する講義</li> <li>13 重症心身障害児の介護と生活の実際</li> <li>14 外出の介護に係る技術に関する演習</li> <li>15 ノーリフティングケア</li> <li>16 ノーリフティングケア</li> <li>17 車椅子への移乗、ベッド上・畳間の体位変換、安楽の工夫</li> <li>18 排泄及び、入浴浴槽への移乗、床から椅子・ベッドへの移乗</li> <li>19 外出の介護に係る技術に関する演習</li> <li>20 福祉用具</li> <li>21 福祉用具</li> <li>22 まとめ</li> <li>23 試験</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 「ガイドヘルパー研修テキスト (全身性障害編)」 中央法規出版 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 定期試験・提出物・出席状況 授業態度等により総合的に評価	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・無 )				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術H (視覚)		授業の種類 演習		授業担当者 金平景介・野村晃江	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2年 後期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 視覚障害を正しく理解し、視覚障害者への正しい手引き方法と接し方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]  <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者 (児) 福祉の制度とサービスの種類や内容、同行援護従業者の業務</li> <li>・業務において直面する頻度の高い障害・疾病</li> <li>・移動支援の基本・応用技術の習得</li> <li>・視覚障害者向け機器展示室「ルミエールサロン」への見学</li> </ul> </p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 視覚障害者の基礎知識を修得し、同行援護従業者養成研修課程の資格を取得する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 視覚障害者 (児) 福祉サービス</p> <p>2 同行援護の制度と従業者の業務</p> <p>3 障害・疾病の理解</p> <p>4 障害者 (児) の心理</p> <p>5 情報支援と情報提供</p> <p>6 代筆・代読の基礎知識</p> <p>7 同行援護の基礎知識</p> <p>8・9・10 基本技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつしてから基本姿勢まで・基本姿勢と留意点・してはいけないこと</li> <li>・歩行、曲がる・狭い場所の通過・ドアの通過・いすへの誘導</li> </ul> <p>11・12・13 応用技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事・トイレ・車いす利用の視覚障害者への対応・環境に応じた歩行・さまざまな階段</li> <li>・さまざまなドア・エレベーター、エスカレーター・車(タクシー)の乗降、車内介助</li> </ul> <p>14 視覚障害者向け機器展示室「ルミエールサロン」への見学</p> <p>15 試 験</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 「同行援護従業者養成研修テキスト」 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 試験 提出物、授業態度および出席状況 ※ 欠席者は、授業時間外で補講を行い、適切な技術を身に付けた学生に同行援護従業者養成研修修了認定を授与する。</p>		
<p>実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</p>					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程A	授業の種類 演習	授業担当者 西尾 優介	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義・目的を理解し、それぞれの過程において必要な知識を習得する。  [授業全体の内容の概要] 講義・演習を通して、介護過程の展開の全体像を把握する。  [授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 介護過程の展開の全体像を他者に説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程の意義と目的 2 展開のプロセスと基本的視点 3 アセスメント [情報収集] 4 アセスメント [情報収集] 5 情報の解釈・関連づけ・統合化 6 過程の明確化 7 アセスメントの実際 8 計画の立案 9 目標設定 10 具体的な支援内容・方法の設定 11 実施 12 実施 13 評価 14 評価 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程B		授業の種類 演習		授業担当者 西尾 優介	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他教科で学習した知識・技術を統合して、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を学ぶ。          介護過程を展開するための情報収集・解釈・分析・統合・課題の抽出・記録の方法を学ぶ。          施設体験を通して多職種連携における介護過程を展開する意義や目的を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義・演習を通して介護過程の展開の目的・手順・展開方法を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>アセスメントについて、目的を持った情報収集と正確な記録ができる。また、得た情報を分析して、課題を導き出すことができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護過程の展開のプロセス・基本姿勢の確認</li> <li>2 アセスメントとは</li> <li>3 情報の収集 (フェースシート) が持つ意味について</li> <li>4 事例を通して、情報の収集 (個人ワーク)</li> <li>5 事例を通して、情報の分析・解釈・統合化 (個人・グループワーク)</li> <li>6 事例を通して、情報の分析・解釈・統合化 (グループワーク)</li> <li>7 第2段階介護福祉施設実習に向けて再確認 (アセスメントについて)</li> <li>8 第2段階介護福祉施設実習で、学んだことの振り返り</li> <li>9 発表</li> <li>10 事例を通して、情報の収集 (個人ワーク)</li> <li>11 事例を通して、情報の分析・解釈・統合化 (個人・グループワーク)</li> <li>12 事例を通して、情報の分析・解釈・統合化 (グループワーク)</li> <li>13 発表</li> <li>14 全体のまとめ</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」(第2版) 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・態度・出席状況・提出物を総合的に評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程C	授業の種類 演習		授業担当者 西尾 優介
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他教科で学習した知識・技術を統合して介護過程を展開し、利用者個別のよりよい人生を支援するための介護計画の立案・実践できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事例を通して介護過程の展開を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 利用者を多角的に捉え、個別の介護計画を立案・実践・評価できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護過程の意義・構成要素</li> <li>2 介護過程におけるアセスメント</li> <li>3 ニーズを見つける視点とニーズの判断</li> <li>4 介護計画の意義</li> <li>5 目標と期間の設定について</li> <li>6 援助方法の設定と記録</li> <li>7 介護計画の実施と記録</li> <li>8 介護計画の実施</li> <li>9 介護計画の評価</li> <li>10 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例)</li> <li>11 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例)</li> <li>12 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例)</li> <li>13 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例)</li> <li>14 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例)</li> <li>15 試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する</p>	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )			

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程D	授業の種類 演習		授業担当者 西尾 優介
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]                      介護過程とチームアプローチを理解するためのプロセスを通して、介護福祉士の役割を理解する。                      介護研究の意義と方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                      第3段階介護福祉施設実習において、より良い生活を支援する力を養うため、種別の違う介護過程を比較、検討しながら、深く関わらせていただいたご利用者の介護過程の実践における学びについて、専門的知識、基本的技術を持って理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]                      ケースレポートが構成の流れに沿って作成することができる。第3段階実習時の介護過程の展開における、学んだことと今後の課題を述べるができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]                      コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り (記録)</li> <li>2 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り (アセスメント)</li> <li>3 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り (チームアプローチ)</li> <li>4 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り (計画)</li> <li>5 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り (実践)</li> <li>6 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り (評価)</li> <li>7 ケースレポートの作成準備 (個人の振り返りを通じた意見交換)</li> <li>8 ケースレポートの作成準備 (意見交換後の個人の課題抽出)</li> <li>9 ケーススタディの進め方～ケースレポートの構成と作成上の注意点～</li> <li>10 ケースレポートの作成</li> <li>11 ケースレポートの作成</li> <li>12 ケースレポートの作成</li> <li>13 ケースレポートの発表に向けて</li> <li>14 ケースレポート発表準備・練習</li> <li>15 ケースレポート発表</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]                      ケースレポート作成の手引き                      適宜、配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]                      授業中の態度及び出席状況、レポート提出状況と内容、発表会での態度を含め、総合的に評価する</p>	
<p>実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・無 )</p>			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程E	授業の種類 演習	授業担当者 西尾 優介	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] パソコン操作の基本を学び、レポートや報告書、お知らせ等、職場で必要となるパソコン能力を身につける。また事例研究発表に向けて、プレゼンテーション資料の作成方法を習得する。 [授業全体の内容の概要] 職場の業務になじめるよう、一般的なパソコン操作の基本を身につける。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 文章や、発表用資料の作成ができるパソコン能力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ワード操作① 2 ワード操作② 3 パワーポイント操作① 4 パワーポイント操作② 5 ワード操作③ 6 ワード操作④ 7 ワード操作⑤ 8 ワード操作⑥ 9 ワード操作⑦ 10 ワード操作⑧ 11 パワーポイント操作③ 12 パワーポイント操作④ 13 パワーポイント操作⑤ 14 パワーポイント発表① 15 パワーポイント発表②			
[使用テキスト・参考文献] 授業内で適宜、配布		[単位認定の方法及び基準] 課題提出 出席状況 授業態度 を総合的に評価する	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )			



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習A		授業の種類 演習	授業担当者 宮本 直樹・野村 晃江 西尾 優介・和田 理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必須	
[授業の目的・ねらい] 第1介護福祉実習の教育効果を上げるため、演習を通してコミュニケーション方法や適切な記録物の作成方法を学ぶ。				
[授業全体の内容の概要] 1. ICTを活用し、それぞれの施設の特徴を把握し、実習に向けて準備する。 2. 施設の種類や概要、基本的なコミュニケーション方法、実習記録物の書き方について概説する。				
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①基本的コミュニケーション方法やマナーを習得する。 ②第1段階介護福祉実習に向けて施設の概要と利用者の理解を深め、介護福祉実習内容を明確化できる。 ③実習記録物の適切な書き方、表現方法が理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数				
1. 介護福祉士に求められるものを学ぶ (コミュニケーション方法、マナー、学生に求められるもの) 2. レポートの書き方 (考察について) 3. 介護サービスと介護福祉士の役割～zoomの活用～ 4. 介護サービスと介護福祉士の役割～zoomの活用～ 5. 介護サービスを学んだ振り返り (グループワーク) 6. 介護福祉実習の意義と目的、介護福祉実習に向けて 7. 介護福祉実習に向けて説明、事前準備 8. 介護福祉実習に向けて事前準備 9. レクリエーションの企画～七夕行事に向けて～ 10. 七夕行事の準備 11. 七夕行事の振り返り 12. 実習記録の書き方① (実習日誌の書き方) 13. 実習記録の書き方② (自己学習の書き方) 14. 学生として求められるもの、実習で達成すべき課題 15. 実習オリエンテーション				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習B		授業の種類 演習	授業担当者 宮本直樹・野村晃江 西尾優介・和田理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必須	
[授業の目的・ねらい] 演習や体験学習を通して、利用者一人ひとりのこだわりや生活の違いについて学び、介護福祉士の役割について理解する。 [授業全体の内容の概要] 在宅サービスの特性、利用者・家族の生活、在宅介護実習の意義について概説する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 在宅介護の現状・問題点を多方面から理解し、学校で学んだ知識・技術を統合させて実習時に適応できる柔軟性、応用力、判断力を身につける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 在宅実習の意義と目的 2. 利用者について考える (グループワーク) ~利用者の全体像を知るために~ 3. 生活について考える (グループワーク) ~在宅生活を知るために~ 4. サービスの特性・概要① (訪問系サービス、通所系サービス、グループホーム、サービス付き高齢者住宅など) 5. サービスの特性・概要② (訪問系サービス、通所系サービス、グループホーム、サービス付き高齢者住宅など) 6. サービスの特性や概要を学び、利用者が抱える課題を考える 7. サービスの特性や概要を学び、家族が必要としていることを考える 8. 在宅介護を支援する立場の家族の理解 (家族支援の在り方) 9. 在宅介護を支援する立場の家族の理解 (支援者として求められること) 10. 実習事前準備 (記録方法の意味と必要性) 11. 実習事前準備 (記録から得られる情報共有の重要性) 12. 実習事前準備 (事例に基づいた考察の演習) 13. 実習事前準備 (事例に基づいた考察の演習) 14. 実習事前準備 (施設概要の必要性と書き方) 15. 実習に向けてのまとめ				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習C		授業の種類 演習	授業担当者 宮本直樹・野村晃江 西尾優介・和田理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習を通じて専門的知識・技術を実践するための、具体的な方法を学ぶ。 また、介護福祉実習に向けて、自己の学びや思いを言語化する力を高める学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>第2段階実習にむけて個人目標の設定、実現に向けての具体的な取り組み方法の理解をする。また壮行会と報告会を実施し、意見のまとめ方、発表の仕方についての基本的な視点を概説する。ビジネスマナーを身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>自己の学びや思いを、実習日誌に言語化できる。 さらに、他者理解が必要な基本的コミュニケーション方法や、姿勢を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2段階介護福祉実習準備 (必要書類の確認、実習施設選択)</li> <li>2. 第2段階介護福祉実習準備 (個人票・通学届作成)</li> <li>3. 第2段階介護福祉実習準備 (個人票・通学届作成)</li> <li>4. 第2段階介護福祉実習準備 (前訪問説明：施設訪問、電話訪問、zoom訪問)</li> <li>5. 第2段階介護福祉実習準備 (前訪問シュミレーション)</li> <li>6. 第2段階介護福祉実習準備 (グループ目標作成)</li> <li>7. 第2段階介護福祉実習準備 (反省会「振り返り会」について)</li> <li>8. 第2段階介護福祉実習壮行会準備</li> <li>9. 第2段階介護福祉実習壮行会</li> <li>10. 第2段階介護福祉実習壮行会 (まとめ)</li> <li>11. 第2段階介護福祉実習 (中間登校日)</li> <li>12. 第2段階介護福祉実習 (実習後の振り返り①)</li> <li>13. 第2段階介護福祉実習 (実習後の振り返り②)</li> <li>14. 第2段階実習報告会準備 (グループワーク)</li> <li>15. 第2段階介護福祉実習報告会</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・無 )				

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習D		授業の種類 演習		授業担当者 宮本直樹 ・ 野村 晃江 西尾優介 ・ 和田 理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 第1・2段階介護福祉実習での学び、課題を踏まえ、第3段階介護福祉実習において総合的に利用者の日常生活の援助ができるように、学生自ら考えて行動ができるようにする。					
[授業全体の内容の概要] 学生自身の日々の生活と支援を必要とする利用者の課題を照らし合わせながら、実習に向けて心身の準備、知識、技術の確認とともに自ら「気づき」「考える」「まとめる」「表現する」力を追求し、課題整理、取り組み方法を具現化できる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ① 第3段階介護福祉実習に向けて個人、グループの課題が明確にできる。 ② 考察力を身につけ、適正な記録ができる。 ③ 就職を見据えて、障害・高齢者の介護サービスが理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 実習準備 (施設について学習) 2.                    " 3. 実習準備 (目標の立て方) 4. 実習準備 (個人の課題を明確にし、取り組み方法の検討) 5. 実習準備 (グループの課題を明確にし、取り組み方法の検討) 6. 実習準備 (個人票、通学届の作成) 7. 実習準備 (個人票、通学届の作成) 8. 実習準備 (個人の課題に沿った自己学習レポートの作成) 9. 実習準備 10. 事前訪問準備 (電話連絡方法・質問内容確認) 11. 実習打ち合わせ会準備 12. 実習打ち合わせ会準備 13. 実習壮行会準備 14. 実習振り返り 15. 実習報告会準備					
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] レポート提出、出席状況、授業態度で評価する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 林 佳代	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 (前期)	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理・身体的特徴に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の成長・発達に関する知識を習得するため、発達の定義と各発達段階の特徴、その課題が具体的に理解できるようにする。</p> <p>身体的・精神的・社会的な役割や変化について学び、生涯にわたって発達が理解できるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的変化が理解できる。そのうえで老化に伴う心身の変化、家庭や地域での役割の変化、心理的变化が理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 成長・発達の考え方 (発達とは、環境因子)</li> <li>2 成長・発達の原則、法則</li> <li>3 成長・発達に影響する要因 (遺伝、ホルモンなど)</li> <li>4 人間の発達段階と発達課題①発達理論</li> <li>5        "                               ②発達段階と発達課題</li> <li>6        "                               ③身体機能の成長と発達</li> <li>7        "                               ④心理的機能の発達</li> <li>8        "                               ⑤社会的機能の発達</li> <li>9 老年期の特徴と発達課題 ①老年期の定義</li> <li>10       "                               ②老化とは</li> <li>11       "                               ③老年期の発達課題</li> <li>12       "                               ④人格と尊厳、老いの価値</li> <li>13       "                               ⑤喪失体験</li> <li>14 老年期をめぐる今日的課題</li> <li>15 試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「発達と老化の理解」</p> <p>参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する</p>		
中央法規社					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 林 佳代	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1年 (後期)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「発達と老化の理解Ⅰ」の学びを踏まえ、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う心理的变化や心身機能の変化及び高齢者に多い症状や疾患に関する基礎知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「発達と老化の理解Ⅰ」で学んだ人間の成長・発達に関する基礎知識をベースに、老化による新心機能の変化と日常生活のリスク、高齢者に多い症状や疾患について、介護実習や日常生活での高齢者の関りから考える。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①加齢に伴う心身機能の変化の基礎知識を理解することで、高齢者の気持ちに寄り添い、高齢者を尊重することができる。</p> <p>②健康寿命や介護予防のために、高齢者の日常生活上の支援の留意点を理解できる。</p> <p>③介護・医学関連用語や意味を理解し、説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフサイクルの中の老年期 (発達段階振り返り)</li> <li>2 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (老化の特徴)</li> <li>3 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (加齢による生理機能の低下①)</li> <li>4 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (加齢により生理機能の低下②)</li> <li>5 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (認知機能の変化と日常生活への影響)</li> <li>6 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (身体機能低下の予防)</li> <li>7 高齢者の心理 (心理的变化)</li> <li>8 高齢者の心理 (老いの自覚と社会的変化に伴う関り)</li> <li>9 高齢者の心理 (高齢者に多い症状と日常生活上の留意点)</li> <li>10 高齢者に多い症状や病気 (生活習慣病)</li> <li>11 高齢者に多い症状や病気 (生活習慣病)</li> <li>12 高齢者に多い症状や病気 (骨関節疾患、呼吸器疾患)</li> <li>13 高齢者に多い症状や病気 (廃用症候群)</li> <li>14 高齢者に多い症状や病気 (保健・医療職との連携)</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
「発達と老化の理解」中央法規社 参考文献は適時紹介			筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 講義	授業担当者 西尾 優介	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年生 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 認知症の医学的基礎知識。 認知症の人の心理および行動・心理症状のメカニズム。 認知症の人の権利を守る制度・施策など。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症とは何か、医学的原因・症状・治療等の基礎的な知識を理解する。 認知症の人の心理を理解し、行動・心理症状の出現する背景について知識を持つ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 認知症の基礎的理解① (認知症とは何か) 2       "                   ② (脳のしくみ) 3       "                   ③ (認知症の人の心理) 4 認知症の症状・診断・治療・予防① (中核症状の理解) 5       "                   ② (生活障害の理解) 6       "                   ③ (BPSDの理解) 7       "                   ④ (認知症の診断と重症度) 8       "                   ⑤ (認知症の原因疾患と症状・生活障害) 9       "                   ⑥ (認知症の治療薬) 10      "                   ⑦ (認知症の予防) 11 障害を抱えて生きることへの支援① (認知症を取り巻く状況 これまで～今～これから) 12      "                   ② (認知症ケアの理念と視点) 13      "                   ③ (認知症当事者の視点から見えるもの) 14 補足 見直し 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] ・最新 介護福祉士 養成講座13 認知症の理解 中央法規 ・介護福祉士 国家試験 過去問題集		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 授業態度 出席 提出物により、総合的に評価する	
実務経験の有無 ( (有) ・ 無 )			

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 荒牧 花菜	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 認知症の人のケアと生活支援の視点を理解し、その援助方法を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 認知症の人の生活の多面的な理解と介護の方法。 家族への支援と地域のサポート体制。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 認知症のケアの視点と方法を理解する。 家族への支援・地域作り、専門職の連携について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 認知症ケアの実際① (パーソン・センタード・ケアの考え方) 2 " ② (認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメント・ツール) 3 " ③ ( " ) 4 " ④ (認知症の人とのコミュニケーション) 5 " ⑤ ( " ) 6 " ⑥ ( " ) 7 " ⑦ (認知症の人へのアプローチ) 8 " ⑧ ( " ) 9 " ⑨ (認知症の人の終末期医療と介護) 10 " ⑩ ( " ) 11 介護者支援 ① (家族への支援) 12 介護者支援 ② (介護福祉職への支援) 13 認知症の人の地域生活支援 14 補足 見直し 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] ・最新 介護福祉士 養成講座13 認知症の理解 中央法規 ・介護福祉士 国家試験 過去問題集		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、授業態度、出席、提出物により、総合的に評価する	
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )			



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 大坪 奈緒	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 (後期)		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある人の心理、身体機能に関する基礎知識の習得</li> <li>・ 本人を取り巻く環境と家族を含めた地域の支援体制と社会とのつながり</li> <li>・ 法的制度と社会環境の変遷の理解</li> <li>・ 全体を通して介護福祉士としての視点と役割機能を習得</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の概念と障害福祉の基本理念との結びつきの基礎的理解ができ、地域との連携、他職種協働によるチームケアの必要性が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 障害の概念が説明できる</li> <li>② ノーマライゼーションの理念について説明できる</li> <li>③ 障害のある人の自己決定・エンパワメントが理解できる</li> </ol>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会と障害福祉</li> <li>2 障害者の概念と定義</li> <li>3 障害者福祉に関する法律</li> <li>4 障害者福祉法に関する</li> <li>5 障害者福祉の理念① (ノーマライゼーション)</li> <li>6 障害者福祉の理念② (リハビリテーション、インクルージョン)</li> <li>7 障害者福祉に係る機関、施設、関わる職種</li> <li>8 障害者福祉の地域におけるサポート体制</li> <li>9 社会資源の種類と利用、開発</li> <li>10 障害のある人に対する介護の基本的視点①自己決定</li> <li>11 障害者の人に対する介護の基本的視点②エンパワメント、アドボカシー</li> <li>12 家族支援 (ハード面、ソフト面)</li> <li>13 家族ニーズと介護負担の軽減 (レスパイトケア)</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 新介護福祉士養成講座 「障害の理解」中央法規			[単位認定の方法及び基準] 試験、授業態度、出席状況等で総合的に判断する (試験 80%、グループワーク、授業態度、出席等 20%)		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 笠原 由紀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の種類、その基礎疾患に対する医学的知識を習得する。</li> <li>・ 機能障害に伴い、医療的器機を使用している利用者の器具の管理方法、精神状態、健康状態の管理方法を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活に影響している障害、疾患の基礎知識を医学的側面から学ぶ。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①障害をおこしている疾患を理解する。</li> <li>②身体機能の障害が生活へ及ぼす影響を理解する。</li> <li>③医療的援助方法を理解し、他職種との連携の必要性を学ぶ。</li> </ol>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害 聴覚障害・言語疾患障害</li> <li>2. 運動機能障害</li> <li>3. 知的障害 (疾患)</li> <li>4. 精神障害 (疾患)</li> <li>5. 高次機能障害</li> <li>6. 発達障害</li> <li>7. 内部障害 (心機能疾患)</li> <li>8. 内部障害 (腎機能障害)</li> <li>9. 内部障害 (呼吸機能障害)</li> <li>10. 内部障害 (膀胱・直腸障害)</li> <li>11. 内部障害 (肝機能障害)</li> <li>12. 内部障害 (H I V・難病)</li> <li>13. 補足 見直し</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 「障害の理解」		[単位認定の方法及び基準] 試験、授業態度、出席状況等で総合的に判断する (試験80% グループワーク評価、授業態度出席等20%)		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・無 )				

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・狙い] 生活支援技術の根拠となる人体構造の理解 (構造・機能)、生命誕生から老化による心身との関りを学び、利用者の心身状態を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人体構造や機能、心のしくみを基礎とした人間理解を深め、生命維持のしくみ、人間の基本的欲求を理解する。 ②生活支援を必要とする人の身体・こころのしくみを理解し自立に向けたケアの根拠を基にケアを展開できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 支援を必要とする人の身体構造や機能、機能低下や障害が及ぼす影響を理解し、安全・安楽な自立支援が実践できる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 序 章 健康の定義 (身体、精神、社会環境、経済活動など)</p> <p>2 第1章 こころのしくみについて (人間の欲求、自己実現と尊厳)</p> <p>3 こころのしくみについて (基礎①)</p> <p>4 こころのしくみについて (基礎②)</p> <p>5 第2章 からだのしくみ (からだのつくり)</p> <p>6 からだのしくみ (細胞、組織、器官、器官系)</p> <p>7 からだのしくみ (脳のしくみ)</p> <p>8 からだのしくみ (神経、脊髄、筋肉)</p> <p>9 からだのしくみ (感覚器)</p> <p>10 からだのしくみ (呼吸器)</p> <p>11 からだのしくみ (循環器)</p> <p>12 からだのしくみ (消化器)</p> <p>13 からだのしくみ (泌尿器、生殖器、内分泌)</p> <p>14 生命を維持するしくみ</p> <p>15 試験</p>				
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士全書第2版 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 参考文献は適時紹介			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 (後期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援技術の根拠となる人体構造の理解 (構造・機能)、それらを活用した介護サービスの適切な提供を関連付けて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①人体構造や機能、心のしくみを基礎とした人間理解を深め、生命維持のしくみ、人間の基本的欲求を理解する。</p> <p>②生活支援を必要とする人の身体・こころのしくみを理解したうえで安全・安楽な自立に向けたケアの根拠を基にケアを展開できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>支援を必要とする人の身体構造や機能、機能低下や障害が及ぼす影響を理解し、安全・安楽な自立支援が実践できる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 第3章 移動のしくみ①</p> <p>2 移動のしくみ② (こころのしくみ)</p> <p>3 移動のしくみ③ (からだのしくみ)</p> <p>4 心身機能低下が移動に及ぼす影響① (精神機能低下)</p> <p>5 心身機能低下が移動に及ぼす影響② (心身機能低下)</p> <p>6 変化と気づきと対応</p> <p>7 第4章 身支度のしくみ①</p> <p>8 身支度のしくみ② (こころのしくみ)</p> <p>9 身支度のしくみ③ (からだのしくみ)</p> <p>10 身支度のしくみ④ (からだのしくみ)</p> <p>11 機能低下や障害が身支度に及ぼす影響① (精神機能低下)</p> <p>12 機能低下や障害が身支度に及ぼす影響② (身体機能低下)</p> <p>13 変化の気づきと対応</p> <p>14 まとめ</p> <p>15 試験</p>				
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士全書 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 参考文献は適時紹介		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する		
実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )				

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅢ		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 2年前期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・狙い] 生活支援技術の根拠となる人体構造の理解 (構造・機能)、老化による心身との関りを学び、利用者の心身状態を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人体構造や機能、心のしくみを基礎とした人間理解を深め、生命維持のしくみ、人間の基本的欲求を理解する。 ②生活支援を必要とする人の身体・こころのしくみを理解し自立に向けたケアの根拠を基にケアを展開できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 支援を必要とする人の身体構造や機能、機能低下や障害が及ぼす影響を理解し、安全・安楽な自立支援が実践できる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第5章 食事のしくみ (栄養と水分)</li> <li>2 食事のしくみ (食事に関連したこころのしくみ)</li> <li>3 食事のしくみ (食事に関連したからだのしくみ)</li> <li>4 食事のしくみ (治療食)</li> <li>5 食事での医療職との連携のポイント</li> <li>6 変化の気づきと対応①</li> <li>7 変化の気づきと対応②</li> <li>8 第6章 入浴・清潔保持のしくみ (清潔がもたらす効果)</li> <li>9 入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ</li> <li>10 入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ①</li> <li>11 心身機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①</li> <li>12 心身機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②</li> <li>13 変化の気づきと対応排泄に関連した</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士全書第2版 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 参考文献は適時紹介			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅣ		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (4単位)		配当学年・時期 2年 (後期)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援技術の根拠となる人体構造の理解 (構造・機能)、それらを活用した介護サービスの適切な提供を関連付けて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①人体構造や機能、心のしくみを基礎とした人間理解を深め、生命維持のしくみ、人間の基本的欲求を理解する。</p> <p>②生活支援を必要とする人の身体・こころのしくみを理解したうえで安全・安楽な自立に向けたケアの根拠を基にケアを展開できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>支援を必要とする人の身体構造や機能、機能低下や障害が及ぼす影響を理解し、安全・安楽な自立支援が実践できる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ (排泄のしくみ)</p> <p>2 排泄に関連したこころのしくみ</p> <p>3 排泄に関連したからだのしくみ</p> <p>4 排泄に関連したからだのしくみ (人工肛門など)</p> <p>5 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 (精神、判断力の低下)</p> <p>6 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 (身体機能の低下)</p> <p>7 変化の気づきと対応</p> <p>8 第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>9 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</p> <p>10 第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ</p> <p>11 終末期から危篤状態、死後の身体理解</p> <p>12 終末期における医療職との連携</p> <p>13 まとめ①</p> <p>14 まとめ②</p> <p>15 試験</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉士全書 「こころとからだのしくみ」中央法規出版 参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する</p>		
<p>実務経験の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</p>					

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア I		授業の種類 講義		授業担当者 和田理砂	
授業の回数 34回	時間数(単位数) 50時間(68時間) (4単位)	配当学年・時期 2年通年(前期)		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士として必要な医療的ケアの倫理性をもって、安全かつ安楽に実施するための基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施の背景</li> <li>・医療の倫理と人間の尊厳</li> <li>・保険医療制度とチーム医療</li> <li>・医療的ケアのリスクマネジメント</li> <li>・喀痰吸引を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術(基本研修の習得)</li> <li>・経管栄養を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術(基本研修の習得)</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人間の尊厳や医療の倫理を理解し、医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを尊重できる。</li> <li>②人体の構造や機能を理解し、医療的ケアを安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術を習得できる。</li> <li>③正常と異常の判断ができ、かつ急変状態の対応が理解できる。</li> <li>④喀痰吸引・経管栄養基本研修に必要な知識・技術を習得し修了する。</li> </ol>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療的ケアとは(医行為について、医療的ケアの背景)</li> <li>2 医療的ケア制度</li> <li>3 安全な療養生活</li> <li>4 救急蘇生法(講義)</li> <li>5 清潔保持と感染予防</li> <li>6 健康状態の把握(心身の健康、急変状態など)</li> <li>7 感染予防(感染とは、介護職の感染予防の意義・方法)</li> <li>8 感染予防の実際(手洗い・うがい、使い捨て手袋・マスク、ガウン、エプロンの使用)</li> <li>9 喀痰吸引の基礎知識(呼吸のしくみと働き)</li> <li>10 喀痰吸引の基礎知識(喀痰とは、喀痰吸引が必要な状態とは)</li> <li>11 人工呼吸器について(しくみと装着時の留意点)</li> <li>12 こどもの喀痰吸引を必要とする疾患と症状、感染予防</li> <li>13 喀痰吸引時の観察と実施時の留意点</li> <li>14 喀痰吸引時のリスクマネジメントと急変・事故発生時の対応</li> <li>15 喀痰吸引に必要な物品(必要物品の根拠、吸引器のしくみと使用方法)</li> <li>16 喀痰吸引の実施手順(口腔)</li> <li>17 喀痰吸引の実施手順(鼻腔)</li> <li>18 喀痰吸引の実施手順(気管カニューレ内)</li> <li>19 喀痰吸引実施後の記録・報告</li> <li>20 喀痰吸引に関する基礎知識・実施手順まとめ</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「別巻 医療的ケア」 中央法規社</p> <p>参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験(80%)、授業態度、出席、提出物(20%) について総合的に判断する</p>		

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア I		授業の種類 講義		授業担当者 和田理砂	
授業の回数 3 4 回		時間数(単位数) 5 0 時間 (6 8 時間) (2 単位)		配当学年・時期 2 年 (前期)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士として必要な医療的ケアの倫理性をもって、安全かつ安楽に実施するための基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施の背景 ・医療の倫理と人間の尊厳 ・保険医療制度とチーム医療</li> <li>・医療的ケアのリスクマネジメント</li> <li>・喀痰吸引を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術 (基本研修の習得)</li> <li>・経管栄養を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術 (基本研修の習得)</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人間の尊厳や医療の倫理を理解し、医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを尊重できる。</li> <li>② 人体の構造や機能を理解し、医療的ケアを安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術を習得できる。</li> <li>③ 正常と異常の判断ができ、かつ急変状態の対応が理解できる。</li> <li>④ 喀痰吸引・経管栄養基本研修に必要な知識・技術を習得し修了する。</li> </ol>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>21 高齢者および障害児・者の経管栄養とは</li> <li>22 経管栄養について (しくみと注意点)</li> <li>23 こどもの経管栄養を必要とする状態像や消化器機能と留意点</li> <li>24 経管栄養時の観察と実施時の留意点 (感染予防策)</li> <li>25 経管栄養時のリスクマネジメントと急変・事故発生時の対応</li> <li>26 経管栄養に必要な物品 (必要物品の根拠、正しい使用方法、清潔保持)</li> <li>27 さまざまな経管栄養剤の種類や使用物品の特徴 (加圧パック、スクイーザーなど)</li> <li>28 経管栄養実施の観察ポイント</li> <li>29 経管栄養の実施手順 (経鼻)</li> <li>30 経管栄養の実施手順 (胃ろう、腸ろう)</li> <li>31 経管栄養に関する基礎知識・実施手順まとめ</li> <li>32 経管栄養時に起こるトラブルと対応</li> <li>33 経管栄養時の実施後の記録・報告 急変時の対応 (救急蘇生とは) 救急蘇生法の手順 (AED使用手順)</li> <li>34 試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「別巻 医療的ケア」 中央法規社</p> <p>参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する</p>		



授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケアⅡ		授業の種類 演習		授業担当者 和田理砂	
授業の回数 34回		時間数(単位数) 50時間(68時間) (2単位)		配当学年・時期 2年(後期)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士として必要な医療的ケアの倫理性をもって、安全かつ安楽に実施するための基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>経管栄養を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術(基本研修)の習得</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①人間の尊厳や医療の倫理を理解し、医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを尊重できる。</p> <p>②人体の構造や機能を理解し、医療的ケアを安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術を習得できる。</p> <p>③正常と異常の判断ができ、かつ急変状態の対応が理解できる。</p> <p>④経管栄養基本研修に必要な知識・技術を習得し修了する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 喀痰吸引(口腔・鼻腔内)①(安全、安楽な手技について)</p> <p>2 喀痰吸引(口腔・鼻腔内)②(安全、安楽な手技について)</p> <p>3 喀痰吸引(口腔・鼻腔内)③(安全、安楽な手技について)</p> <p>4 喀痰吸引(気管内カニューレ)①(安全、安楽な手技について)</p> <p>5 喀痰吸引(気管内カニューレ)②(安全、安楽な手技について)</p> <p>6 喀痰吸引(実技試験)</p> <p>7 経管栄養(経鼻)①(安全、安楽な手技について)</p> <p>8 経管栄養(経鼻)②(安全、安楽な手技について)</p> <p>9 経管栄養(経鼻)③(安全、安楽な手技について)</p> <p>10 経管栄養(胃ろう、腸ろう)①(安全、安楽な手技について)</p> <p>11 経管栄養(胃ろう、腸ろう)②(安全、安楽な手技について)</p> <p>12 経管栄養(実技試験)</p> <p>13 救急蘇生について(①)</p> <p>14 救急蘇生について(②) 実技は別途で実施する</p> <p>15 多職種との連携</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「別巻 医療的ケア」 中央法規社</p> <p>参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験(80%)、授業態度、出席、提出物(20%)について総合的に判断する</p>		
<p>実務経験の有無( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</p>					